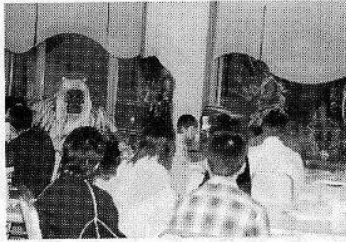


# 薫風・満天フィールド交流塾 大学間交流で雪まつり

## 大潟村 県立大学が農家体験

秋田県立大学生の企画・運営による「薫風・満天雪まつり」が二月二十日から二十二日までの三日間、大潟村の県立大学大潟キャンパス・フィールド教育研究センターで開催された。

同まつりは、同大学が平成十九年度からスタートした「自然・農との交流」「人との交流」「社会との交流」等を通じて学生の人間力を向上させることを目的とした教育プログラム「薫風・満天フィールド交流塾」が育む人間力・遊びと農業の教育力が若者と社会を結ぶの一環として、「農業・農家体験」をテーマに北海道大学や東北大、日本大、京都大など全国九大学の農業系サークルに所属し



ている三十人の学生を同キャンパスに招いて開催された。

雪まつりの初日、参加した学生たちはJR線で秋田駅で集合し、出迎えのバスで大潟村着。移動中の車内で、秋田県や同村の歴史、農牛事情（食料自給率、耕地面積、主要作物等）などをクイズで学ぶ。午後から九農家（チューリップ、苗出荷、アスパラ、菊等）九グループに分かれて農業・農家体験をした。夜のウエルカムパーティーはサンルラル大潟で行われ、交流大学生のほか、村長や学校

理事、交流塾スタッフなど六十人が出席。初めになまはげ太鼓伝承会（男鹿市北浦）による郷土芸能なまはげ太鼓の実演Ⅱ写真Ⅱで楽しんで。終演のあと、会場を練り歩くなまはげと写真を撮る人も現われるなど、なまはげの人氣で盛り上がった頃、同まつり実行委員長の佐々木亮太さんが「雪まつりは始まったばかりですが、参加された他校の皆さんは有意義に存分に楽しんで行つて下さい」と挨拶。次に高橋浩人村長が「全国の九大学から参加の皆さんは大潟村によくおいで下さいました。今や世界は農業の底力を発揮できる職業です。農業では実践が大切なことです。農業で生計できる職業として、誇りを持って挑戦して下さい」と挨拶したあと、同大学袖原義久副理事長が「文科省の選定を受けて二年目になるが、自然と農業を介しての体験や、遊びと交流を通して三日間を有効に過ごしてもらいたい。また、大潟村の当校の施設も見学していただき、参考になる点があれば幸いです」と乾杯の言葉を述べた。パーティーでは、午後からの農家体験のイベントの写真がスライドに映し出され、参加者らは交流を深め合った。

二日目は、大潟キャンパスでサークル紹介、農家（芹田）さんの講演、グループワークや郷土食（きりたんぼ）作り体験などのほか、夜は農家さんを交えて九グループの体験報告会と意見を交換し合ったあと、懇談会が行われた。

三日目は、午前と午後に分かれて雪遊びが行われた。同キャンパス・フィールド教育研究センターでは、雪



合戦や雪像作り、クロスカントリースキなどのほか、積雪は少なかつたが広野でスノーモービルや農業機械に引かれたそりで滑走Ⅱ写真Ⅱして、歓声を上げていた。また、八郎湖大潟橋附近でワカサギワカサギ釣りに興じた。夜は懇親会のあと、同交流塾の露崎浩塾長

「人との交流」では▽交流塾夏まつり▽大学間交流など、「社会との交流」では▽農家との共同生活Ⅰなど、多様なメニューが実施され、それに参加した学生の延べ人数は七百名を越えている。

国が学生を対象に十九年度から開始した、「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」は、学生の人間力を高め、人間性豊かな社会人を育成するための新事業で、同プログラムの選定に向けて応募した県立大の「薫風・満天フィールド交流塾が育む人間力」も遊びと農業の教育力が若者と社会を結ぶ一環として、全国の国立、公立、私立大学の二百七十二校の申請から採用された七十校の中に選ばれた。支援期間は四年間（平成19年度～22年度）で財政支援は年間最大二千五百万円。四年間で一億円が支援される。